

2019年1月7日

株式会社生命科学インスティテュート 社長 木曾誠一 2019年年初挨拶（要約）

新年明けましておめでとうございます。

さて、昨年末に清水寺貫主が世相を表す漢字として挙げられたのが「災」でした。昨年は、福井県の豪雪に始まり、西日本豪雨、台風、北海道地震と本当に自然災害の多い年でした。また、周りに災いをもたらすという意味では、コンプライアンスに関わる問題も多く報道されました。われわれ生命科学インスティテュート（LSII）グループもこれらを他山の石として、コンプライアンス意識の向上に取り組んでまいりたいと思います。皆様方におかれましても、これまでの常識を今一度見直し、顧客の目線に立って、求められる品質、担保すべき品質は何なのかを一緒に考えて頂きたいと思います。そのためには職場でのコミュニケーションが重要です。自由闊達な議論の出来る職場作りを行っていきたくと思います。

一方、事業の方に目を向ければ、昨年は非常に厳しい年でした。医療環境は保険財政を反映するように厳しさを増し、医薬品メーカーなども国内市場ではなかなか利益を出せないような状況になってきています。LSII グループ各社を取り巻く環境も厳しい状況となっておりますが、グループ各社は海外事業の強化、構造改革、飛躍に向けての施策など、それぞれ努力頂いているところです。LSII では再生医療分野の Muse 細胞製品について大きな進捗がありました。1月には心筋梗塞、9月には脳梗塞、そして、12月には表皮水疱症を対象とした治験を開始しました。そして細胞製品の製造施設である CPC を川崎市殿町に建設し、今後は試作を繰り返し、商業製造に向けた検証を行います。また、健康・医療 ICT 分野に関しては、各プロジェクトで鋭意開発を進めています。今年は LSII にとって、大きな節目の年と考えています。

今年は平成最後の年であり、新元号となります。LSII グループにとってはどうなるのでしょうか？今年が亥年。いのししの肉は万病を防ぐと言われ、無病息災の象徴ととらえられています。われわれが進める健康経営にぴったりの干支ですね。また、「猪突猛進」という言葉があるように、いのししには真っ直ぐに突き進むというイメージがあります。われわれもそれぞれの事業で、それぞれの目標に向かって真っ直ぐに突き進みたいと思います。そして、その先にある患者さんや健康を願う方々に貢献するという、その夢と価値観を再度確認頂くとともに、みなさん一人ひとりがその中での重要な役割を担われているということも再認識して下さい。われわれの進む先には患者さんや健康を願う方々の笑顔があるはずです。

Muse 細胞の発見者である出澤先生は、実験に失敗した時もそれは現象のひとつだとして常にその結果を最後まで観察されていました。その姿勢が Muse 細胞の発見につながりました。

た。成功の反対は失敗ではなく、何もしないこと。失敗は成功の母。失敗を積み重ねれば成功につながることもある。しかし、何もしなければ成功をつかむことはありません。患者さんの笑顔のためにも、われわれは挑戦し続けます。人間の限界はその人が決めるものであり、あきらめずに一歩でも半歩でも良いから歩みを進めている限り、限界は来ません。歩みを止めず、挑戦し続けましょう。

今年もよろしくお願ひ致します。

以上

**【本件に関するお問い合わせ先】**

株式会社生命科学インスティテュート 総務・法務部 広報担当 TEL 03-6896-8743

株式会社三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 TEL 03-6748-7140